

花傳書

手多12
1.544
6



門 12
1544



よろしうの事なく大りくび表よりききあはれ
とらるる事

一 まるく事とつらき事よ物乃らきてたなる事
とらるる事
なをい志度め程乃位を分別して程乃又白り
似合ころやうよとやまへし熱別程乃うちを
りやすよめ事字なる字依りんりへ又こゝの
呂かん成字なる事よ相應するやうよとや
まへし文字うつり程よく字分字よさうや
やうよんりけへし又程よかんあるやうよと
打きしりぬ様ようよむへし又依りん
とそのおよよと似ころ地をうよぬ也

七

一

乃おをうまもくひませ謝うてをとうてい
 ほうり！ 感あはれ物也小鼓有るい抄りより打を
 うちるりくまよ乃あい地をききこもてやり
 さそ抄りよりをうち抄りくひのよよかん
 あり又ききこもりうらなをかくせと思ひ
 お乃地をたのちりまきそをききこもり打
 ろうてと地とよ水きこもり思とふちてらん
 あはれ物なり謡の曲をい呂のあーい城うその
 少いききこみ也うそのあし乃雨のていききこ見
 ろり打てより呂乃あしよりうち抄りいおの
 ろりうちてより是一大るりのあひ也身一
 といとやい大夫を女とさり大夫い一度の大お

花をうささとはあんなあまいけはまーき取
 あてかをりけはへき取てをうけらひ舞
 ぬるともきよあきこひあまよあへて舞ぬる
 徳のきりきしををかく引あう節をき
 ぬくはめ那曲をうひまへおきる取をこも
 すへきうりてすくよやりま横よわり
 まくよあるまふ也謝うくをめんをやり申
 なくひあー大更のさききのうふもく
 うまきうみもやよりあまも肝要なりわ
 上よよりとりあ大更乃さき似合をい
 藝い下よとひあー熱別役者い大小太鼓為
 地うひねるまゐるまゝ花の下よたごりわ

下まゝの花の志んのおきつひ威勢ある横みと
つりわのわくへーその持の要也つりわお志ん乃
振舞の面白ん下草のとりあひあーきれい
つりわとーてよき花とは尸ぢーか横のり
警古大すまそぢーよまく 小ぢれだ
あまこつちけゆんまーくるおまたと
下まゝーて名人なわぢぢい大夫成るやまひ
大夫よけへー熱別世君み人乃尸の上ま
名人とはおかきなるちうひまて人を人言ふ
たあーやー尸の上まと尸いも藝面白きを
上まと尸也名人と尸い流藝くくひるれ
けいさうあひひすらまとーてよまぢり

名人のんよへは流藝なる取あを名人とは
尸也左様も万人よかめーきんすぢこれ警古
くんきんよてなるへきやさはよまて名人と
尸事一お米はるまれ也是い名人のうたき先
歌の口傳と尸い序破急陸陽此位をよくたん
きんーて歌け肝要なわ太和がりの陸陽此
位を女たろせ男たろせと尸也名しうかアれ
とて回る也能一番乃君も次第い序まて破と
あはしあり又序の序とあるもさ感い破急と
こむるもあり是い流れあーおんをよくうき
まへて分別をきいきこゆるものなり
一歌のたもきとくろきとまてはきとまつらるる

との大方は、ゆるりまて、らうきと、Pののりて
 よき、ゆるりする、く、と、ゆる、か、ら、き、と、P、ら、る、石
 車、の、の、り、く、拍子、よ、さ、き、く、ら、を、た、や、き、と、P
 と、志、の、う、あ、は、と、の、の、り、て、よ、き、位、よ、ゆる、さ、き
 く、け、あ、と、人、も、さ、り、く、ま、ゆる、く、と、あ、ん、よ
 ゆ、あ、を、あ、う、ぎ、て、さ、や、ま、を、志、の、り、な、る、と、P、休
 志、く、る、き、と、P、位、く、ひ、乃、位、く、さ、う、わ、く、ら、を
 志、く、ら、き、と、P、な、り、く、ま、た、な、る、か、り、り、也
 一、見、き、終、り、い、こ、れ、奉、一、笛、真、乃、呂、を、あ、く、志、ん、の
 孫、と、あ、を、う、く、ま、さ、は、笛、の、ん、よ、あ、く、と、ま、い、
 小、つ、く、ま、き、さ、く、ま、り、打、初、る、數、い、五、の、あ、ま、さ、
 人、乃、あ、ま、く、い、中、乃、あ、く、と、一、の、二、の、打、る、口、傳
 なり、五、位、の、お、き、つ、く、也、小、鼓、乃、鼓、を、一、つ、二、の
 う、け、て、笛、吹、く、何、と、え、ま、き、ま、小、鼓、を、く、打
 お、ん、の、あ、り、き、時、笛、初、位、を、ま、く、二、位、の、り、吹
 一、小、つ、く、打、出、初、い、ま、さ、く、ま、り、く、ら、
 二、番、目、の、拍、の、う、り、く、ら、初、一、三、番、目、の、拍、く、ら
 打、お、し、四、番、目、の、ゆ、り、の、く、ら、を、う、け、て、ま、き、さ、く、
 拍、く、ま、さ、は、り、く、ら、二、の、六、下、の、内、み、う、ま、り、
 う、ら、な、る、あ、く、く、ら、と、く、り、う、ち、あ、け、の、く、ら、
 二、の、拍、の、と、あ、る、也、お、き、け、く、ま、く、鼓、う、ち
 あ、き、き、時、か、い、く、れ、笛、あ、り、ん、の、書、く、り、鼓、吹
 お、ま、天、竺、和、合、樂、地、等、く、り、自、在、樂、と、観、会、乃、の
 も、ち、あ、り、小、鼓、た、ま、け、く、の、く、く、打、く、あ、ひ、い

第一節も同お也笛調子の位よ習ひ口傳あり
 つき大長太鼓打うもより搦かゆへあうへ
 地よつけてりこまり脇太鼓舞臺乃ききへ
 出る時笛うんのゆりうけ呂よあうら
 序破急よ小鼓よまへし扱舞臺きき足り
 をき豫而孔をを神の意をとりをきあり
 其時小鼓打あきうらの教七所あてあり
 あく休也但九つうの流もあゆりい人うち
 人其不審すへい若き時ゆりうけて吹ま
 ゆり乃數九所九曜の星と表を小鼓のかし
 七所七のり成しこと休あえ乃ゆり
 うけてわきかへとあく休こつこか
 つけてきあり休笛小鼓脇太鼓三人のこ
 一乃の位也さくわき大夫かこ城いありて
 名繁さく名繁すきつさわきうちあり二つ
 りあわらあをり次才をうらあ角うなる行を
 うらあ八幡山もも若きりくとうつを打の
 おへゆくかまきゆくはまわきまはたへ
 五き大夫二乃脇ふむうつて世きふをひて
 さくわき屋ふあをら
 五き終打やれり次才の時ハ午の次才也
 小鼓こより打つこみ脇乃次才也上略中略
 下略本乃うら城うのなわ

あり大あうー不恒此一世いよ小難いかー
うちんそせい叶つひに傳但玲乃恒よありー
りーありーハヨき終よはありまへーひ一考此
打あき考此いうちあけらヨき終い打とめて
本のうーう故うつし建もなうしあういうち
とめいかくのこくあけへー

一瓦上のうひ色ひくをたわと云取うて下無烟
よりつてつろふあり

一をとうう志平の足ちひあれ笛ふきやうあり
中の方書ひ返さたま舞臺へ舞うておるあひ
まうひ鼓りー舞乃位も同さなり

一きー鼓りより謡よあゆ取中略也まはあひの
うーう打也うーひ一句上略を打也うーう
うーひとむる取と乃きさこまてりーう
なり熱してヨき終よはつてを並ぬ物也何の
あもあひーうあ物なり

一思ひをのあううりなりとつよ吹揚あり呂
なり本りけのちりをかろあよと云よ初中乃
呂をかへーてあくなり

一あいさ砂とりよ笛吹んのつろふあり口傳
一なりまて合考ううへて笛うんより吹あり
一うれも久ーき名取りをと云取笛中よりあく
よ六下乃よあり祝云よ口傳

言葉のうちよ松もあともふこれとーまへと

上

上

ワふよ呂のツろ三あり口傳

一 四浦波志のウマてと云所も第一切吹合へん
一 松をそ目出度うわけ進と云笛を音よりひ
きうけて吹口傳大つてきうけりあきくくと程
云子うのへし

一 すめ侍氏とそゆたうなると云よ妙んのを音
一 程々松のいハれ流物落る人と云子大侍へん
うーらとに同ーき也ゆりれうちまてそ流を
なりゆりてくむる所本のうーら笛うりあけ
音とりを吹中乃音音まてよく

一 南枝花を吹中乃音音まてよく
乃多あり口傳

一 吹くよ乃内うーら二つ也は一ののうぬ
ききよもそをまううらよそのの口傳

一 吹奏の形と云よ笛吹横あり六下ゆうくと
一曲舞りあけ流所のうーら上略也くあひ乃
吹くうけ打へし流れうち視云よ守分て
うらうー上たのおうていりうあ

一 異國もも本物あも新民こ進哉賞歌と云所
笛吹やうつて色打きりてあきえうんをさう
筆一本乃うちやうなり
一 立ちあけり乃あきゆあもと云所あや笛かん
うり吹まあり

一 中もも名ハき流乃とりよあもて中うん六下

祝云よあくなり

一 論依子なる三の打返さ也論依乃内太吏と
地との打換ありらちいめ依め依らけけ
ん也ろんきさてかく屋へ入つふもみきく
とろ川なり

一 満士の小舟よりちのりてとつあ取は太師と
呂子たと一抄あり笛き音のひーき一吹
りけ祝云打やう口傳あり

一 沖のりへつてまわりやと云取は吹換口傳
一 狂云太吏あひの抱後をつひ太長後狂言
しと繁城りつ一狂言時笛少きやうみこれ
あく事ハあひ何知とすきらとあく屋へ

志うせんうため又狂云太史いそめの論談此
す急太史あく屋へ入時吹笛乃調子をうけ物
語をすり也されとも狂云乃こと繁り調子必
うりそめあものあきいわきよ調子を
せんうためあはる時分よ喜とあを吹なり
一 比浦あひまをあげてとり少よ喜ひ一き
かくはあなり

一 ちやすものはよつきまきりとりあつて
一 吹やうあり口傳屋うてひーくつうあも
祝云よあくへしはひーさの位を太鼓おは也
太鼓打いけて打へ一笛もあひあり口傳
系かりよは鼓うちうは也太史乃まうきを

尺でつきかひとやうりたるもさへ一は乃
 つて乃拍子をうろへてと云ふみく鼓地
 らふ習ひあり笛の少き扱ありすく志め給く
 とつふ所まで笛呂のくたきを吹舞へ祿舞此
 かり急れ急なり笛二倍目此たう一はあひ
 ありは手の添ふもあひのねてもあひは
 たろ一は書よ吹へてひりきの能よかきりて
 祝言のままと定め是を少く、巴口傳肝要也千秋
 樂ハ民をふて言のひりきをひて一は紙
 乃了急れたのむよそのひくくと吹てひて
 吹おさめよひりきありはひりきのころも
 かんよう一番乃おさめあまひひりきよて

うまのたさめのなげあくは也ひたれ要なり
 りき能乃離やう大くくめは一日乃能のま
 まりまきひりき能肝んをりわき能出来ら合
 其日の能ひるるまてお来拍也又脇のよ少て
 きよらんひも日の能おさめまてきあひぬけ
 らてあき拍をり返くわき能才一次才より
 けふも祝言をふくまきくとおへうけ
 けう哀傷へゆんとうまうまうへく由新
 せんハ哀傷よなわたりわん拍也うま色く
 けうも祝言を少くませきやひうて離拍なり
 熱別祝言とよまこととぬりなる事ハあき
 色の也春乃らんめの清よろしひと一孔いふ

うしとーあまかりよ面白きもあつらふぬ物也
歌也ーろろせしむるくとなやまを祝云
と尸なり淫も物ーろろせしむるあつらふ
うしとすらすら急よ呂をゆくませむのふ
祝云哉心くふ物なり其面白きと尸の幽玄
きんがみふろくあはれもの也返くまきのふよ
こ侮やうなるるのいあー淫乃うち地しと衆
くわとりふとあひーろろわき乃終りー
つをを下よ置らるまきなるるしつよもく
志うきんよきあひぬきんろぬやうよらや
うしとひけりんよらなり

一 志乃八幡大く同あのをや也ゆきやうこ
か志つらふん熱別うやうのうき能位ハ定里
たりと尸せはかあれ志乃ー此替り面よら
又いふよら歌此位少替るへー大夫すち乃
面かあるるあり歌終急あはへー鬼むきの外
すちの面やうりやき面いあ

一 老松お生川白樂天志三番ハのうにかつれ共
大く同あなり鬼分老松志乃くふん熱別
うき終のうちよ老松やと志乃りなるるやう
あくく古来よ花の咲くらもくもやまへし
りー天女おる事ーあり歌梅殿と号は紅梅殿
舞あうの志つらふ三條乃破の舞ありよすく
あくするくとなやまへー何もまの序なり

とや—大さあ〜ぬ位習ひる本乃名ハ〜つん
とつ〜り高乃序とは平調返〜成中も

一 呉服とや—乃位の子弓八幡老松のあひ〜也
志清〜もあ〜急〜あもあ〜中乃位なり

一 志磐佐見老松野波右何とつ〜いかつれとも
同お乃〜年〜なり何も祝云也能波乃扱い京
かりあお〜唐かあり〜あた進か〜まであ
物〜とやわと〜三ヶ月あ〜成き〜お体舞い
破れ舞也今春わ〜りい〜あ〜と〜して志ろき
だ〜り〜と〜あ〜く〜せ〜を〜け〜かく〜ふ舞なり
是上わ〜り下わ〜り乃ろり也天女乃舞い〜と乃
破なり大まの舞い〜と〜き〜り

一 見もとそ満満志〜ひげ大座〜ろ九世戸吉野
寢覚乃床多〜替進とも大才似〜の舞也何也
祝言〜き能なりわ〜能の〜とや—扱〜めよ
事—志ゆ〜ん〜進も〜ん持あり

一 八幡通盛とや〜のたくひ〜せい〜き〜勢〜よ
う〜ひ出〜月乃お志平のとり〜ふ〜り築て
とや〜ゆ人よ〜勢〜の中の一〜い〜とも〜り
八幡よとち〜げの板〜り引ちき〜つ〜と云あ
〜り同高の弓大まの舞あり〜もは舞れ内
〜体〜と〜き〜や〜み〜と〜と〜き〜乃
た〜て成の波松風〜りれと云取〜り〜も
とや—も志の〜を〜人れ位ふ舞〜

太夫乃舞あしひんあへしかきりきり此内
二番存ううふもたくさんよ所よくきあひ
ぬきんワぬやうよちやまへ

一 田村忠彦種政さのもり清経久の替進其大形
同多也但たむういにもちやうふ脱云才一の
備後也幸乃備後よりやしてわろ一脱云一
ちやまへ一ううのりつひまさ法経の公家
みくまへますゆへよゆうよる幸よけとかく
ちやまへ一種政の陰乃歌也夢中乃歌也種政
うき身一の歌なり熱烈とき次才志ううふ
んあ一急乃りつひのしう一太夫の一せいの
さ一急の一せいの也侍士のよひ急とつふ

あよりりけて一せいのうい也後の一せいの
うきくとりろき一せいの也打都よあうひ
あり歌をわし時あれいとつあ回はうひの
乃りなり休くとちてう一ち程よ一乃
若の合戦と云あつよもあきくとときかふて
打へ一序破急の歌なり位ぬけんちぬやうよ
んうけ肝要也中絶あきとや一なり

よひの歌のうつひ乃備後のうちよてあふ
きかふ備後也うきれ次才志流りなり太夫の
次才いかる一のぬ也いぬまへし口傳あや
備後よ花よとそと云あううううぬ也あも
うううけちやまへし

一 松風の歌乃るりあしひのたなき舞なりり
 次乃るりおる時もあり名紫ていつるをあり
 太和わり系わりのわうち也一替りい志つり
 たり一世い松風よりおいあ一替りい
 笛流い笛くそをうそふ太和わりい一
 せいすき秋るまきころと次乃てうそふなり
 い所く一此杖風よのうそひ所おりちやあま
 てもすまのうそひ所二倍つても打やう面白き
 いつけちありうく程の吟くさりをあ合似お
 る様よちやまへしももこりりやなを
 思ひふそいあつけまといふ所もて六夫あ
 仕舞あういつも歩きるへうやう乃とも

とや一横大事一也左横よあくらん六大夫
 仕舞さや一の取もやま人をよき歌と尸なや
 か横乃るりつる建乃能もお初りうくいけ
 うそ大夫乃仕舞ぬりもつぬやうも歌る
 肝要なり拍きの流る大つてもうらふあうひ
 あり笛志んのしこのき也笛いさこまわころ
 笛をいれさ流大夫いたやく程も事一巻ハ物
 き乃音とりを吹おさめてうりいよの事一吹
 吹うひさ流ようて太史笛を志しさま
 んのゆう鼓い次乃よあうひ舞まてをあき
 物なり一拍子よのうぬ歌なりうちむまふま
 うぬ也舞りる急乃舞なり初流りり二流め

志所うふら簡よ二位目よ意の事ありめり
 能とりよる氣分松風燈の宮也破乃舞此まひ
 とめよ習ひありきよは舞とめてうちあき
 大夫上よりて舞も氣よあり終の位もよく
 祭て面白け連いつの乃とく舞とめひして
 大更ありうき風情をしそ松をさるくと
 志てうらうのきをよそ見をく休も時大小打
 あけよあひありかく乃とく舞とめひの
 時つひれとく打あけうへい仕舞ねきとて
 あひひはめつとく文をつけてすひら時
 考のうらうめうちあきうへいすりなり
 かやう乃事よま進なりとあまいよくと

うげらつひいけうありやく大更よ氣をつけ
 了一節大小ともお上よのまよとをまよ
 か積此仕舞いお初くとて一代のうちり
 三交よる今ひおの舞い氣志の舞也ま其の
 舞よあひひひよきあまあ進たり平乃思ひ人
 たりよよゆうよやきとくやまなり
 ゆや此舞あきう平の次才志つうふら初め
 ねきけとつふも為きようちさうて打上り
 ちつきと三の初とつ一宗盛清出らねき
 けとあまい如志ようちてよき乃あま
 里人なるものつてんねきつてよけ天と地との
 ちうひなり熱別のねきつてよき乃位ふり

真字のりまへし文乃うちり篇乃つら五山奉
 ろへへ〜の遊屋此歌幽玄の行よき位也曲舞の
 わ〜り太和わりの打き〜す京わりの打切て
 うま〜も也舞のかりも太和わりのつ〜もの
 一急をうけたのわ〜里也京わりの〜めを
 のろ急て舞よわゆる急乃舞と尸也席破急乃
 舞なわゆるひよ短冊の位舞ひあり太史急よ
 んなよまるるとん〜き時い〜よも〜ま〜
 もやまへし大夫短冊をうきう〜り仕まの
 身かまへをう〜たやまへし篇も心持同意也
 大夫是乃ま〜ひ歌ん〜き〜と〜上〜
 うりけたると〜い〜篇も鼓も打上ぬ

うり〜へい仕舞ぬけ〜て大夫是をき〜め也
 祝言よ〜き〜と〜たやまへし何れ松風とい
 能いあ〜ひおかき舞なり〜総古まへ〜
 陰の中此陽乃舞なり
 一聖の宮乃歌の奉〜つふも〜ま〜んよ歌へ
 あ〜さひ〜宮雨と云あ〜つ〜もさひ〜
 と似お〜りや〜よ〜も〜一歌〜の中乃
 一せい也舞ハ席の序也かんかり也文有あは
 能と是を〜の松風の〜〜二短〜あり是ハ
 音并を同つけ〜ひまお〜ま〜ませ〜い〜
 あもけ〜る〜も〜ま〜へし松風と大き〜
 ち〜あ〜是色及の舞よ本よ舞あま〜破乃

花巻七

舞のときく舞く舞く舞とあ時分は鳥針をあら
うきよなるくくと見かたはる時打あはる
ありこもまき進かふる事なり

一 せいのをのちや 大更次舞陰也 一 舞の中乃
一 舞なりまひい序のまひかんのなり序は能
なり舞のうちまは舞へしに持あり舞るてい
あきやうふい故物とく同く一 舞なり
まきくつてまひりきるにありは侍れなき舞也
はあい高の能ありあひ草の能もあひ舞の
まきしなり

一 口乃ちや 乃る乃る乃るあもくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 せいのをくくくくくくの一せいと名付は子あり
ちめを次才よ打か中一せいのくくくくくく
おくくくくくくくくくくくくくくくくくく
一 せいと是候はこれいおくくくくくくく
又曲舞の内くくくくくくくくくくくくく
拍子と云事小鼓はありは侍花も言も言も
波もと云ふお大夫に持あり杖乃あきく
落てとくくくくくくくくくくくくくく
序也平洞通くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

つゝおかすへー 笛をき都ー 中絶らまゝー くら
けつつけとら 笛より吹かすへー けりうら次才
くやうのたぐひあまゝあは率一なりよく
けりへー けり乃あやすき回一くらんめんあ
もやまへー

一 升筒此 嘯大するのまやー なり中入のまへあり
一 き習ひもあくく曲舞此うちまんは 嘯へー
幽玄の上へ也後の一せいの中の一せい也序破
急なり舞の序の舞なり序へあはあは鼓大小
あうひあり一 毒乃うち乃肝に也なりひらの
形見のあをー 牙ふふまてとつふあなり序へ
かー 分る乃るなり三位乃まやー といふけい心持

習ひあけまへ序よりあへるまねまじく口傳
るへー 熱別げ終ひ習ひたかき 嘯なりあ上は
功をも徳き人乃あうひかりんるまじく
くくの一 番のうちは 陰陽をわくつ 嘯也女た
みしと男なりきりと言うり陽此位なりあ
幽玄はとやー あまいゆうまもやまへー 口傳
抄初一 きりまんよまもやまへー

一 定家次才まうり也 抱まらき夕部なりきり
りあ兩文白ありひてまもやまへー 笛もつら
まへー けり上きまも乃内より 徳かまへー
曲舞まうり也後の一せいはあうひありこれ
一 せいま乃一せいと云こまぬ一せいでり

をもちしきさきと拍子哉よせてしひひと
 さする也ゆめりしとよとううふ飛ひ一勢ノよ
 わしは流らん世よ牙いあし波れと云取一せい
 ちわわくはくゆーみ原あきまよあしあ取乃
 所法まで打上あしひ大るありきよけ打上ぬ
 秘事一也舞ハ序なりものとのもくくもひまと
 つるくや定家ううととととと陽の位なり
 陰陽の元合れおき舞也い持分別しと舞ア
 何よより破乃舞も舞ア一つとまもたまは
 かぬへをよく目付ふ口付なり

一 中あし序乃るや一也一勢ノ中乃一勢也
 序乃ぬなり序の舞のかりよたまは也つるも
 けとぬく為常よたまは也

一 千妻乃とやし陰乃中の陽乃舞也但舞乃うちけ
 位のり也曲舞きりのた屋一やりあきくくと
 さつとーううたやなわ白拍子れまひまは
 あまりまよる書よはりやさぬ也い口回あ
 一 云志乃り是と白拍子の舞なりあまりまよ
 けたくいたもやさぬ能也曲舞の内は勢乃終の
 うちまて志流くふん序乃舞呂のかりなり
 さうノとと志あやりなるいや一也

一 赤水院是の本の精なり何とまへすりくくと
 ともまへ一是もけとかく為常よたまは也
 あしは名古花のせいあまは朽木のせいあま

まはちりひんあまなりまのやさぬ終也
拍子乃舞よりあんなに舞をへし一序いつて乃
舞をへし舞をて今去りてよの舞はあま余の
座よりいつるものともく也きりつふも花やうふ
もやとる

一楊貴妃乃舞次才陽也きくくとかるき次才
なり天よあうい舞うくいとつふ雨色慕の
いもちされとも世中のとつふより哀傷なり
つふもあんなに舞をへし舞曲舞あきとも
楊貴妃一番ききてわらせまひ乃くくわ也
あつれ小蝶乃まひと云よりつる云あり本の
つる云也真乃りのき也松風をとの映し女の
ものきよはらうあちりあへしつふもうら
くくあんなに舞をへし玉乃あんなきとり
あ士よあうくひけきいと云不き乃仕舞
習ひあつ形見乃りんあつを見定めつやとも
是の世中みとうへひおまに持くくつふも
さこめはして深おま事あき也是習ひ也
熱刻はききいあうひに付ねかきき也よく
口傳さへし楊貴妃よりまの物を伝ふとき舞而
あつへを地よつけけ終ふへし又あつて
時七回つるあつ舞の序乃舞なりあんのあつ
まの舞なりこれ終はたませいのろあつと大き
なりあつくくまことつるあつとたまあつと

かゝく斟酌すへしも子細いたとひ上手くわ
とつあは年一よりぬきいそすこと見くはしき
なりはまらつてい年一き也きは子よてと
よりぬきい揚貴妃の能いなりくき物なり
返こい能真の能也よくいけし

一宋女の嘯のりし聖の言千妻乃君なるへし
聖の宮いみやま所也嘯も去よたし千妻を
自拍子也きはよりつて嘯もきうなる也
うきめい太二妻此君なりと尸の宋女の宮女
なり宮女もてく人其位さくわさる宮女なり
犹ふよりて嘯もきいけし席の舞あり是
よりりし和音乃いを舞此内よりわたりし口傳

一鞍馬天狗乃嘯此事善果と大形似さるる也し
なりちあうさいたう此鬼也太高房全形王
殿へころをうへらまらるやき風情なり
嘯もきいけしちやきくわい善果なり
ちやくは太夫りあくせうをかは事あり
そ時ちやし此位ちうへし

一世りの嘯乃るりまきたうの嘯也うも色ゆた
ま落付て太夫人ううく能なりまはけし
一持銅松乃山後聖守大形同し事也さうりあり
何もなき替まとも持銅位つては終なり嘯も
らに大事也おのせう入るようひのうち
きりノとたさうく取ありはたさき大

なすちあまなり子才う家よるきくひと一なり
ころせう似合を又ゆるくと志つるよまきい
務をけうふきをひあ一か別肝要なり後の鬼
常乃鬼子あしひあとの鬼なりまき口信
松の山境は鬼あとの鬼也同あ

一船君いたくひすくあ一あ乃一船の志つる也
さし一急は深の内裏傷也同く小くひひ乃
す急の深而固あなりさし一急曲舞同あ入ん
裏傷の中乃あい志やう也わい急なり流まひ
かへる太鼓あり昭君の出而一せい也あ乱席
してあるもあや急の急なり大事乃能舞也
鬼乃たやよりやう乃能まんなるへ

- 一紅紫狩の舞乃りり大まの次才志つる也わさ乃
- 一歌うたや一せい也曲舞幽玄の急幕也舞の
うちさうの舞也女此舞とんせせ中舞鬼祓
まきへはことこの女子あんたやまのたへし
さくくんとすう里と志こは舞なりきりまきこ
たう才一乃鬼也けりくたくきんは舞魚一
- 一春日祓祓の舞乃る鬼の序さいたうの鬼なりわ
ま^業く屋よりわわちかとの君五段の舞はるや
大なるわ祓祓乃るや一あまのあろろるあ
舞はあしひつふもたくきんは大夫此きあひ
ぬけらるぬ橋に付たやまへ
- 一芸業男舞也書きの男舞よりあつるふ人但こわう

ふりりろろきり才一の能也きりり祝云也
 曲舞のおも地うてひあり千代乃了急ろふ乃
 乃のあちありゆく位を分別してさふへし
 乃乃位ハ次才乃乃物あつれよ心をゆへし
 何一曲舞回あき里祝云あまのつろふもた
 さんよあきやくふきかふてたまやまへし

一七孫落乃たむしの事舞ハ何あ此舞有り去
 舞へし兩國の兵をせさんま進ハ程あく情勢
 二十万孫よなり給ひ何くと云兩より程言也
 ともや一のん持かへてうきくとたまやまへし
 初ハきり才一の能也ん舞ハ何あへし
 一舞くの舞のてゾおんさうりハ也うま乃うら

ととたうろしと七あくらまひ破乃舞也そこれ
 あろハ真草乃三あへしよく大夫のあり垣見
 見けてたまやまへし高乃みと進ハ何あ人も
 ま進たうへし見たまの見横のりり大夫酒を
 とてのとさうて初ハ二足三足志さうりてさて
 志乃あハ何あむ時乱又大夫杖して足を折時
 らら何れもあり又作り物あくて乱まらりも
 ありそ時乃みやうハ大夫礼まらりんとてま
 へし帯板もる物也是見取也乱まらりたまさ乃
 位ハ大夫淫ハ位をむひよハ分別まへし

一水楹うきくと志つろよ舞へし幽玄也席の舞
 杜若よりハちと志つろよハゆうくと何れ

舞る一葉平の舞あまのつらよもげくくもるき
ふんやとへ一爰よ大るの習ひあり祓舞の
くくもちあるへ

一三升ち此歌の事一せいのうろき一せいの也
たくさんよ打へ一鐘の喧うきくと歌へ
熱別や一き狂女なりまきくと出よくりや
すへしさう乃んや一也

一 百葉弓きの次才陽なり但志つら也念佛乃内
太鼓より一うつけぬ也つら忌ありさう曲舞
きわくくとともやまへ一い舞一き狂女あまの
出よくたくさんよ歌へ一及のりきりのりて
歌へ一うけり且のうち紫てたくさんよ歌へし

子よありぬさきい志やのきわと歌へし子よ
あふてより大夫ううめ一きん持なりきりの
祝言也さうくと歌へしさう乃んや一なり
一 あり横次才うきくと歌へ一あの楽うき乃
戸をひくひて内へいさうんとつら狂女
あひくひあり祓をくくへ横花咲みとく
たまきとさうくとあひくくひ横花さきよと
うくく習ひなり舞の席あり笛も習ひあり
古本よ花れさきくくやうよ吹へし太鼓をて
大小乃いもち肝要なり太鼓あふちいあき
やうなり太鼓をぬきいさうひ一きなり大小の
い持をいさひくくくは後乃種れきびくき

うと心と云ふて太鼓笛をひあや

一遊の柳小楹と同一心もち乃舞の位なり同お

西乃様よ似たりちと志つるをか業平此

舞をまひ尋考し舞へ一序乃うち舞乃ころ

あり幽玄才一の終也遊の柳の栞木此精をまひ

さうふたやまへ一西乃様の花乃せいあまひ

遊の柳より志んよまやまへ

一安宅の舞次才ふきくと打へしさわあ

いいう進るなりるあときうくと舞へ

流とあれ内弁をう完後の位とああれいあ

も流よくけあけよ舞へ一勅進帳のうちよく

口流はつてい舞よ書う一うりあ曲舞の

うち述懐の心持あまいたかやうふうきこ

心よあは舞ハ流あのを舞乃やうあまは流あ

舞よあは舞ハ舞を関守し心をつけ申書をせ

して舞ういぬりりころ事一是なる山

水の落て岩をよひくとりあまわなを心持

志やいきとゆへ一舞の名い太聖舞といわ

ひえ乃山流後乃舞のまなり弁を山門うたち

あせば舞をつひふてあうふと也まひ乃内

破急の位也子ああわきもや舞さうくと

たやまへしまはあく人あ太史の位舞成

かへ一太史いそく仕舞也あしははまへ

一卒都婆小町乃舞乃事一見さ乃次才あつる

大夫の次弟又位高うおはしる連の能もう色は
 似たり能あはれあてしるれうとたこまらひ
 たくいさくあき能也大夫のたこらく事も
 なく遠まてよてすらくとまこは能あま
 つも乃うちうま肝要なり大夫のあし似合
 たり様よまやとへし小町いゆあよやさき
 女も是昔年一よりねまきあまらねまとも
 さんうつてあき狂人もあしひる連の能も
 順よんけり位びりけりまよかきり順也
 さくくと破よまやまへしは侍も之
 一さう髪乃能乃りり物狂も人の余の言の
 能狂よあす延彦才三乃病子よまてま

そのけき抱悪果たもの抱狂もてあし
 一とつともも尋考よけしうく花やくふ能へし
 一返魂香れ能のりる哀傷の中の哀傷也つふも
 一は持あられよもち抱まろくうまへし能へし
 一をまもての能のりあられなる能也あをれと
 一のハ能をもいぬかきて打へし
 一よんたより能也老女の舞大事也習ひ物知
 一いつけたかきまや色きり高の志んなり
 一綿木乃能男の果と是をりよ急幕才一の能也
 一もきれ次弟もつよる大夫乃次弟まくく
 一りろき次弟也々ふ乃かろる目けく
 一可よわりろく引立て能へし舞の事珍木乃

形也ささきこれ内つふもたしくんは行よく
たやまへ一蹴のきあひもて大吏のつこさき
なわらもの也蹴あけ進いんささきさき
きり急よらなりさきたうのりやしたや

一海士の蹴乃ちる也次牙つよもさきく
もやまへ一大夫一せいりろき也ささき
牙の舞海士人と云ふまらんよはてと也玉を乃
候りろく蹴へ一かん大鼓あり笛のわら大夫
大后よ佐理わさ一慈教も時舞よく候へ
大吏ふより多くの仕業ありはた見ささき
あはへ一おまへ人業もや一なわさささ乃蹴なわ
さあささ蹴をいさささささささささささ
ぬりりくへはさ乃ささささささささささ
たさかささささささささささささささ
いささささ物よより蹴のささささささ
警吉ささへ

一三編の蹴乃事陰の次才もさ乃名業も志片
くふらささもささささささささささ
さささささへささささささささささ
位也曲舞の舞曲舞也又をたまささささ
つけと云ふまへ腰をかささささささ
あは杜若よりささささささささささ
さささささ大鼓の打出一習ひあり業もあ
のさぬめもあさささ位也三拍子とりさ

一 耶弊乃わくの事一々一め乃わりの席を吹
 事一々一をせかこをぬき大夫よ
 舞のうーくをさせん乃まひ也そお習ひ
 たかき席也位の数十二位一連の位も名有
 めはよ舞久へかくちうくもた持よへ実い
 片まり色たうわも物也まいけあき舞子の
 片めがくたひまは次第よるむものよてん
 虎扱よ舞うていきよくあくもあかともわは
 町くいあうーとひたうふも志つめゆり
 うーせうそはつよよもや一位よ位をこめ
 席破急よ片めく人いふきかきんよ片まは物
 ありうーそのたのをもめて破急と舞なり節

昔のうーよちりうて三位目を二位よりへ
 吹りあり愛中の舞乃ん也子あり太鼓志の
 習ひ同あ也盧生の夢中此舞をまひんはか
 るへ一舞の中い祝云也うふもあきくと舞
 へしゆあ覺てはきとわなひうきん不祥は也
 心持志んふうとくもやまへ
 一角田川も一き狂女也三井古百あ子ゆへあ
 狂乱し國々返廻り人子よあひて末い
 同お交祝云也まう川い才張や片一國々返
 めくりうへ片終よあもすてむあうなわ
 うる物を見幽冥よあもる也うるゆへ
 よつて哀傷乃中の哀傷と名付物あられ舞へ

心付れかき能なり一かろ乃中の一あなり
 一鉄輪申入よりおいうみけ能あまのそらに
 相應よ歌へし中入りなりはいものすさまじく
 たろろき神さきあそお應よまやもけよく
 たくさんよ力をそへ歌へしいのりも陰陽乃
 初也小つてはとくよむうあきやうよあ
 かしよりんうけ歌へしめま也山伏の初也よ
 ちふるし初也乃末にをすては強をすへし
 一通小町の歌乃より男の具と是を云初乃次亦
 陰也急慕のそをなりきりなるとめとくろ
 うよもけよく志やのさと歌へしうきやう成
 とやならぬ由ぬくへい大更またうきやうし

いふもくきそさくくともやまへし地
 陰うりこくしまつれぬ能也返り地陰肝要也
 一こがりの歌乃事男舞の歌乃序也位中の位
 なりこがりのはかひ大内上臈あれいッよも
 げさかくる考ふッやまへしさう乃あり也
 きわい破のとまりなりあきくと歌へし
 幽玄のい持なり
 一源氏供養の歌の事多品のもや也家式部の
 舞あまのいッふも考よ歌へし一せいの中乃
 一せいの也曲舞乃出く高流いうちきくきし
 ちよ也とまかひいそまうこふ也曲舞の内
 ちよの歌也二位曲舞なり心持習ひたかき能

なわつらよもくうきやうみ歌へしきり真の
 きりなわはつとあつていあくらるうう哉
 こませ打へし小鼓まて也めば乃終何も同お
 ばお多し秘曲まへくく大小ばん持まへし
 一浮舟玉昔大お似くる終なり源氏まて所くり
 う終能まきいきとめていあも為常し歌へし
 初乃一歌ノを志つるよらはの一せいをたまき
 一せい也浮舟い少狂乱のころありむうう
 うりおさこいよまへし是は海りなるあうひ也
 うきくも心を陰よもちさすころるまひは歌
 のちうけり更あとおわ曲舞ころいひとめ頭う
 きまねくころより歌へし

一新田娘乃歌の事是をゆうなりへし舞神樂
 なり五面い控て舞るあはかうう乃はめやう
 三幅と同事一也舞よなわてより破のまひの
 い也舞よなわらうて笛よ神樂よと云事あり
 きり花やうふたくさんよたまをへし
 一富士太鼓次才陰也よするや時乃し急をてと
 いふ取あきくともやすへしかくの内志度
 うふのりて打舞かく席ありおあききさこ
 こめて打あきもちころもちといえするなわ
 席破意ありさう乃歌也初いきんか乃ん持よ
 似より中程い哀傷也はきりよ女うて哀傷を
 まてく花やうふたくさんよたまをすへし

ともたす似くら舞也さうの舞也羯鼓を打討
大小ちろむへし羯鼓の内あまわり手打す

一 菴栄のちや乃るす袖の幽玄なりなるをのちさ

さりりら也ちま乃舞男舞也曲舞まひ曲舞也

うきくくと舞へし羯鼓の舞ありきり祝言也

一 ちんふうあいき里也は鬼也毎里の破のとめ

一 大舎ちろふゆうよはよくもやまへし

一 松曳の舞乃るす綿木と同ち曲舞さくくくと

かろき曲舞なりち夫の次才りろ舞の意の

舞なり同きり舞乃位りりきりなへはるるね

換ふの舞へたくさんよ花やうふ打へ

一 羽衣の舞乃る天人の舞なりつふもげこかく

る考の舞へきり祝言なりつよも花やうふ

たくさんようへ

一 杜若抽きあり中の抽き也曲舞の二流曲舞也

舞序の舞也きりきくくとちやまへし

一 ありりりの舞の事ちこれ備舞なり舞や

いねまへしつひ乃備舞なりちろふりうおも

真なる備舞なり平家のおまろしへいりおも

けこめくる考ふりやまへし

一 冥寺捨垣をてまへしつ建も似くらち也ちの

三番の老女乃舞何もちろ乃ち也ち何も

の持習ひれかき舞なりを分関ちけうちろも

舞大乃舞なりはあハ名人ちろけさけ人の

ちやーら事ーましーわーひち槩のうらま
 ありわあーく斟酌を命ー舞の位いつまも
 陰の位なり老女此舞を是いつまも志つうふ
 こひてまよそやまへし右本よ花此さうんり
 こしくまあそ色つふもく進ころまのあま
 あきうーうあそ故えまの文字くさりなまの
 地あろくゆく取ようひませし折へー回く
 かつーこれ乃事ー是もあまりよ花やうなる
 まなううさね也いつりあも似合ころまをうつ
 へし免分何も舞乃うち志流うあら関吉此舞
 あ茂志川うまら百年ーいとつひて舞より
 雨肝いなり舞つーまよく口傳あへしつらま

かく舞より流れんとそ舞つうふも志かろく
 何あへー行くそお應の舞へし其乃志んれま
 たり抛子たそへい風乃吹ふ朽本よまーうを
 あーくろし舞なり流よく舞ーつりをあへい
 朽本れまらなるわあまり又かきんてよま
 かうつりをうひくへい風よこくへまらた乃
 冥寺のちやーのい持いたそなり急なとも
 あまり花やりまはうけぬなりをえ舞い関吉
 うりあかろくむりーの名人もこまらなる
 終より舞ーすまーう事ーいあきさあとく
 されらる

以上九十七ヶ条舞乃奥書い巻よあき

終すなりけい傳虫の數々を繼子より
分ち子の事ハハトリ一及二高目の
子とつれとも見すりりる中々あり
まき事ハ也如積の事志りておちく
く合秘虫とつれりる事一つこへねを
めつてちるハ秘里作

